

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「学びと支援の新たな結合による第三の教育」推進

エンパワーメントスクールと知的障がい自立支援コースの融合

- 生徒の希望と誇りを育むチカラのある学校
- 第1のタイプ「学び直し」と第2のタイプ「個別の支援」のどちらをも基礎とする新しいタイプの教育を推進する。
- そのことにより大阪の地域社会を支え地域社会に参画する原動力となる市民を育成する。
- 中途退学を3%以内にする。

2 中期的目標

1. 学習力をエンパワーする

学習力向上 PT を中心に教科横断型の研修グループを形成し、平成 29 年度学校経営推進費を活用し全国の先進的な取組みに学ぶ研修を積極的に行う。また、西成区を中心に近隣の義務制学校に指導と支援の方法を学ぶ。

- 特に、授業で生徒を動機付けること。
- 授業力向上という視点から生徒の「学習力」向上の視点に切り替える。
- 多面的な評価方法の開発で生徒の学習意欲を伸ばす。
- 生徒の学習力を伸ばすため、ICT による教育活動の「ハードル」を下げる
- プチスタディーコーナーを設け自学や質問などの学びのスペースを教室外にも設ける。

- 評価指標**
- ①エンパワー診断テストの成績・理解度の伸び率
 - ②学校教育自己診断における「工夫された授業」「わかりやすい授業」への肯定感
 - ③生徒授業アンケートでの授業に対する肯定感

2. キャリア教育でエンパワーする

- 挫折や失敗からリカバーするチカラを育成する。
- インターンシップなどを通して、実践的な職業教育を行う。
- 社会人基礎力の養成を行う。

- 評価指標**
- ①外部人材（CC 等）による評価アセスメント
 - ②進路指導に対する自己診断アンケートでの満足度 75%以上

3. シチズンシップ教育でエンパワーする

- 人権（西成差別）・反貧困・多様性（多文化・LGBT など）・障がいのある生徒など当事者が多数在籍する。仲間の理解を通して世界を把握することができるよう取り組みを進める。
- 18歳選挙権（政治的教養を高める教育）を通して、市民としての権利と責任を身に付ける。
- 「平和・人権・環境・国際問題」などを学ぶ学校として ASPnet(ユネスコスクール)への登録をめざす。

- 評価指標**
- ①ユネスコスクールへの取り組み参加
 - ②生徒会活動への肯定感

4. 「地域まるごと」エンパワーする

- 西成教育フェスタ（スポーツイベントや文化的イベント）の内容のリニューアルを実施する。
- 地域防災の取り組みを地元自治体とともに小中高の連携で行う。

- 評価指標** 学校協議会での評価および区内6中学校からの評価

5. 運営改善で教員力もエンパワーする

- 「チーム学校」の取り組み先駆的に行ってきた西成高校として、「チーム西成高校」（SC,CC,SSW、カフェ事業）の積極的運営を行う。
- 分掌体制の改編を行い、平均年齢 35 歳の教員の有機的な連携体制を構築する。
- 学習力向上 PT により教員も学び続ける学校スタイルを確立する。

- 評価指標** 学校教育自己診断（教職員用）による評価

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成30年1月実施分]	学校協議会からの意見
<p>保護者への調査 「学校は将来の進路や職業などについて学んだり考えたりする時間を適切にとっている」 →[よくあてはまる][ややあてはまる]→75.8% 「学校は家庭への連絡や意思疎通をきめ細かくおこなっている」 →[よくあてはまる][ややあてはまる] →3年:72.2%、2年:62.8%、1年:55.9% 「学校は障がい者理解や人権の尊重などに関する意識を育てようとしている」 →[よくあてはまる][ややあてはまる] →3年91.7%、2年66%、1年82.3% 「子どもが西成高校に入学してよかったと思う」 →[よくあてはまる][ややあてはまる] →3年83.5%、2年70.2%、1年82.3%</p> <p>※概ね、学校への肯定的評価が得られている。 ただし、相談体制や家庭連絡についてはさらに丁寧な対応が求められている。</p> <p>生徒への調査 「学校へ行くのが楽しい」 →[よくあてはまる][ややあてはまる] →3年47.6%、2年49.7%、1年66.7%</p> <p>アルバイトしている生徒の割合 →3年65.1%、2年73.5%、1年38.5%</p> <p>「さまざまな教育活動を通じて、自分の成長を実感している」 →[よくあてはまる][ややあてはまる] →3年53.2%、2年54.9%、1年62.7%</p> <p>「人権や福祉についてまなぶきかいがある」 →[よくあてはまる][ややあてはまる] →3年66.7%、2年76.2%、1年86.2%</p> <p>「授業はわかりやすい」 →[よくあてはまる][ややあてはまる]→68.8% →3年65.1%、2年61.3%、1年78.2%</p> <p>「進路選択をおこなうとき、『産業社会と人間』『チャレンジ』が役立つと思う」 →[よくあてはまる][ややあてはまる] →3年61.9%、2年72.9%、1年67.2%</p> <p>「西成高校に入学してよかったと思う」 →[よくあてはまる][ややあてはまる] →3年55.5%、2年55.5%、1年71.8%</p> <p>※学校へ行くのが楽しいという指標は、人間関係や学習の達成感など総合的な指標であるので、この評価をより伸ばしていけるように取り組みたい。</p>	<p>第1回（平成29年6月24日） 今年度から新委員を迎えた。 ○榎井縁委員（大阪大学特任准教授）○久保真由子委員（本校PTA会長） ○堂上勝己委員（梅南鋼材代表取締役、大阪府中小企業家同友会代表理事） ○西田芳正委員（大阪府立大学 教授）○北本義章委員（大阪市立鶴見橋中学校 校長） 今回は学校側からの今年度の方針等についての説明がほとんどであったが幾つか意見をいただいた。 □アルバイトの実態についての調査をするべきでは？ （←工夫して把握する方法を考える） □キャリア教育とシチズンシップ教育の融合をどう実現するのか？ （←西成高校ロードマップを作成し、教育全体のトータルコーディネートを行いたい）</p> <p>第2回（平成29年11月18日） 今回は授業参観を実施した。 □授業見学をして、非常勤の先生や介助ボランティア等の外部人材も含めた多くの人が生徒に関わりながら課題の把握や対策を進められていると感じた。これら多くの人への課題の周知はどのように行われているか？ →生徒に対応している人には個別に伝えられているが、全体には十分に伝えられていない部分もある。議決機関でなくなった職員会議に関係者全員の出席を認めることも考えている。外部人材が外部でつながっていることも多く、ありがたい。 □外部人材の意識の差をなくし参画意識を高めるためにも、丁寧な対応をお願いしたい。</p> <p>第3回（平成30年1月27日） ○懲戒指導件数が激減し、虐待や一時保護の案件が激増。仕事の比重が生徒指導から生徒支援に移り、授業改善の方向性も見えてきた。そのバランスの変化を今日は見ていただいた。「エンパワメントスクールとはこうだ」と明確に打ち出せるようにしていきたい。（学校長）</p> <p>□学校の変化については肯定的に評価する。そのうえで以下の2点を求めたい</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学校の変化について、以下のことを踏まえた総括 <ul style="list-style-type: none"> ・評価指標（遅刻の減少、工夫された授業への肯定感等）の要因分析 ・卒業生に対する追跡調査 ・学校外での生徒の現状（アルバイト、家庭環境）の把握 2. 1. を踏まえ、以下の観点を加えたトータルプランの作成 <ul style="list-style-type: none"> ・求められる力を身につけるための教科間や学校行事間等との連携 ・生徒の発達段階や学力の分析 ・生徒の人間関係の形成に対する支援のあり方 ・保護者や家庭、地域住民や地域の小中学校との連携 ・人権尊重の精神の醸成 3. 再構築した分掌体制の検証と必要に応じた修正（PDCAサイクル）

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1. 学習力をエンパワーする	○生徒のやる気を引き出す授業づくり	① 先進事例の調査研究（学習力向上PT） ② 学習力向上PTによる学び続ける教員グループによる研修体制づくり ③ 多面的評価や「やる気を引き出す」評価に関する研究 ④ 授業の構造化・視覚化・共同化を推進し、「学びのユニバーサルデザイン」を進める ⑤ 授業を柔らかくするファシリテーションの導入（研究・研修） ①②③をリードする学習力向上PTを通じて経営推進費を効果的に活用した教職員も学び続ける体制を作る。 ④ICTの利用促進を通じて、わかりやすい、認知しやすい授業のあり方を開発する。	■エンパワーメントスクールにかかる診断テストによる伸び率 ■生徒授業アンケートによる評価（工夫された授業の展開）の肯定感	① ②、協同教育学会（岡山大学）、岡山県立倉敷青陵高等学校、神奈川県立大和東高等学校、滋賀県立草津高等学校、神奈川県立光陵高等学校、神奈川県立鶴見高等学校、神奈川県立松陽高等学校、神奈川県立港北高等学校、桐蔭学園高等学校、東京都立稲ヶ丘高等学校、への視察。毎週1回PT会議、年2回の全学研究授業、大阪教育大学教授による研修会実施 →◎ ③ つけたい力の共通理解（○）→次年度に向けてそのための方法や評価に関する共同研究予定 ④ 未着手、3学期待つまでに岐阜県立華陽フロンティア高等学校への視察を通じてUD化 また、次年度以降プリントのA4サイズ統一によるUD化 ⑤ PTのメンバーによる研修会での実践→◎ ■生徒の授業アンケートによる工夫された授業への肯定感→87.4% ◎ ■「診断テスト」生徒個人の年次変化をたどるには相応しくない指標出会ったので、H30年度より教育産業の「達成度テスト」による定点観測を予定している。
2. キャリア教育でエンパワーする	○社会人基礎力（コンピテンシー）の育成	① 育むべき「チカラ」（コンピテンシー）を確認し、「産業社会と人間」「チャレンジ（総合的な学習の時間）」を含めたエンパワーメントタイムのトータルプランを再構築する。 ② 遅刻・欠席等を支援の視点から状況改善させる。 ③ 大阪府中小企業家同友会との連携で社会貢献する意識の育成も図る。	■「産業社会と人間」「チャレンジ」の授業に対する授業アンケート、学校教育自己診断アンケートの肯定感（60%以上） ■遅刻総数（H28 7,235）の20%減少	■「産業社会と人間」「チャレンジ」の授業に対する授業アンケート、学校教育自己診断アンケートの肯定感 67.7%→ ◎ ■総遅刻数 5878 約20%減→ ◎ ③ 中小企業家同友会西成・住之江支部の行政例会に6名の教職員が参加し、研修と連携を深めた。
3. シチズンシップ教育でエンパワーする	○生徒支援委員会を軸に当事者支援を推進する。 ○生徒会を軸とする活動の中で社会参加・社会参画の意識の醸成	① 仲間HRなどで仲間づくりの促進 ② SDG'sをめざす人権・平和・環境・国際問題について、幅広く学べるように工夫する。 ③ トータルプランを作成する中でユネスコスクールとしての取り組みを盛り込む。	■西成高校ロードマップの作成（学習計画・人権学習・学校行事などトータルな教育方針の確立公表） ■ユネスコ ASPnet への登録申請	① 拡大生徒支援委員会を定期的に関催し、学校全体として当事者支援を明確に進めた。 ② キャリア教育・シチズンシップ教育・人権教育を組み込んだトータルプランの作成を年度内におこなう予定で進行中。→△ ■ユネスコ ASP ネットへの加盟は現在申請過多のため、今年度は申請しなかった。次年度再検討する。 ■ロードマップ委員会をH30年度当初に発足させる。

<p>4. 「地域まなび」を「エンパワー」する</p>	<p>○第11回西成教育フェスタの開催</p> <p>○地域防災への取り組みを通じて、小中高地域連携を強める</p>	<p>① 西成教育フェスタでの取り組みを通じて、区内6中学校との緊密な連携を図る</p> <p>② 防災関係を含む地域のイベント等に積極的に参加する。</p>	<p>■学校協議会や区内中学校からの評価による肯定感</p>	<p>① 第11回西成教育フェスタ 12月16日に開催。例年以上の参加者。→ ○</p> <p>② 学校防災アドバイザー派遣事業を通じて、地域の防災リーダーとも連携した訓練や取り組みを実施できた。→ ◎</p> <p>■中学校等へのアンケートは実施できなかったが、中学校訪問を通じて概ね良好な評価をいただいた。</p>
<p>5. 運営改善で教員力もエンパワーする</p>	<p>○機動的・機能的な学校組織の確立と運用</p>	<p>① 各種会議の目的・位置づけを明確にし、運営方法の研究と意思疎通・意見交換のメソッドを開発する。</p> <p>② ICTを活用した連絡調整方法の確立</p> <p>③ 校務分掌体制を再構築する</p>	<p>■学校教育自己診断（教職員）による評価（肯定感75%目標）</p>	<p>① 1月9日より勤務時間を10分繰り上げ、職員朝礼を実施。そのことにより、情報共有の頻度を上げることができた。（一日5分×5日×4週＝月100分）放課後の全職員会議を1回にする。→◎</p> <p>② 未実施 → △</p> <p>③ 新年度から実施予定 2部4課3室体制＝広報指導部（広報企画課・生徒指導課）・学習進路部（進路指導課・教務学習課）・人権教育推進室・自立支援教育室・生徒支援室。</p> <p>■教職員へのアンケートは未実施。次年度フィードバックの方法を考案する。今年度はEメールによる意見を多数いただいた。</p>